

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(1月ECB＜欧州中央銀行＞理事会)

2018/1/26

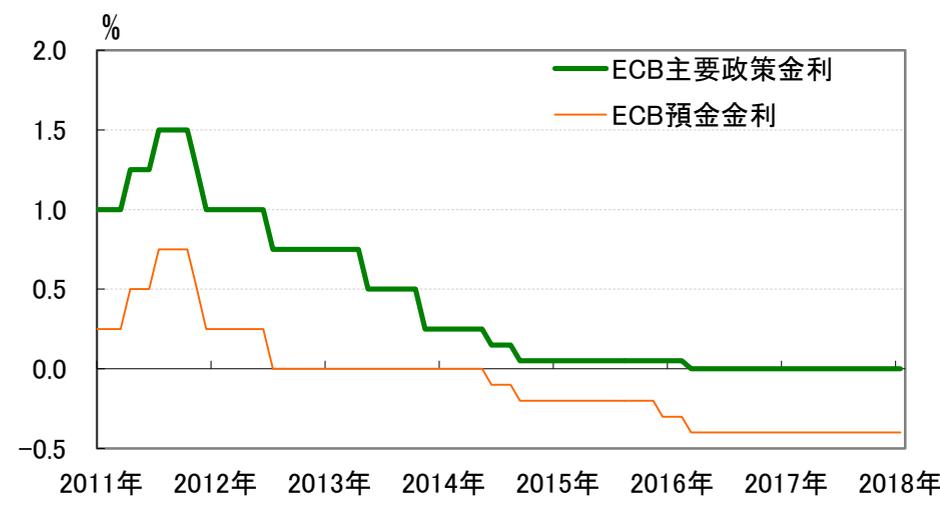
りそなホールディングス 市場企画部

〇概況

- ◆ 政策金利は据え置き、フォワードガイダンスは変更なし
- ◆ ドラギ総裁会見、景気や物価見通しはこれまでの見方を踏襲
- ◆ インフレ率鈍化に繋がるユーロ高へは適宜牽制を入れる見込み

- ✓ 1月25日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、政策金利を据え置き、主要リファイナンス金利を0.00%、中銀預金金利は▲0.40%、中銀貸出金利は0.25%とした。
- ✓ フォワードガイダンス（金融政策の方針表）については、変更なし。「資産買入終了後も相当の期間にわたり、政策金利をこの水準に維持する」とした。
- ✓ 景気面では、ユーロ圏の景気が、拡大しているとした。また良好な資金調達環境や企業収益を背景とした企業投資の回復、雇用増や家計資産が個人消費を下支えし、グローバルな景気回復により外需もサポートされているとした。
- ✓ 物価面では、物価上昇圧力は依然として全体的に抑制されているが、緩和的な金融政策や景気拡大を背景に中期的には徐々に上昇していくとした。
- ✓ ドラギ総裁の会見では、「欧州経済は予想以上に拡大した」、「インフレは中長期的にはECBの目標に近づく」と経済や物価についてはこれまでの見方を踏襲した。出口政策について、「フォワードガイダンス変更の議論はしていない」「今年の利上げ可能性は殆どない」とした。
- ✓ 他方、為替に関して、声明文へ「物価安定のために監視が必要な不確定要素」であると2017年9月以来に盛り込んだことは、足元のユーロ高への懸念を示したものだろう。また「『誰か』が合意に反した発言をした」「何人かのメンバーは為替への米国の発言に疑問を抱いている」と述べ、1/24のムニューシン米財務長官のドル安支持発言に苦言を呈した。今後インフレ率伸び鈍化に繋がるユーロ高に関しては適宜牽制を入れることが予想される。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（12月時点）】

| | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 |
|----------|-------|-------|-------|-------|
| 実質GDP成長率 | +2.4 | +2.3 | +1.9 | +1.7 |
| 9月時点の見通し | +2.2 | +1.8 | +1.7 | |
| HICP | +1.5 | +1.4 | +1.5 | +1.7 |
| 9月時点の見通し | +1.5 | +1.2 | +1.5 | |

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。